己

六年

画数 3

筆順 ㇇ コ 己

オン コ・キ

クン おのれ

成り立ち

糸まきから、糸口を引き出した形を表した字で、〝糸口〟という意味を表した字です。

糸口は「糸の初め」という意味のことばですから、広く「物事の〝初め〟」の意味に使われるようになり、今では、「あらゆる物事の初め」である〝自分〟を表す字として使われるようになりました。自分のことを、昔からのことばでは〝おのれ〟と言いますので、〝おのれ〟とも読みます。

〝己〟が、〝自分〟の意味に使われるようになりましたので、「糸の初め」「物事の初め」を表す字は、〝己〟に〝糸〟を加えて〝紀（4年479）〟となりました。

〔コは呉音で、キは漢音〕

使い方

▽「己の事は己でせよ」というのが、父の子どもの時から守って来た格言だそうです。ぼくも、自分でできる事は人の力をかりないようにしようと思います。

▽今は利己主義の人が多い世の中ですが、昔は、自分の事よりも他人の事を思いやる人の方が多かったということです。

熟語例

▽自己（自分のこと。己）

▽利己（「己を利する」こと。自分だけ利益があれば他の人はどうでもよいと考えて行動すること。）

▽利己主義（主義は「行動の基準となる一定の理論」「自分勝手で他人の事を考えないやり方」のこと。）

▽知己（「己を知る者」という意味のことばで、自分の心をよく知っていてくれる〝親友〟のことを言います。）

▽克己（「己に克つ」という意味のことばで、自分の良くない欲望をおさえることを言います。選手がよく口にする「自分との勝負です」とか「自分に勝つことです」というのも〝克己〟の意味です。）

呼

六年

画数 8

筆順 口 口 口 呼

オン コ

クン よ＝ぶ

成り立ち

〝呼ぶ子〟の笛の形を表した〝乎〟と、〝口〟とを組み合わせて作った字です。

「呼ぶ子の笛を口にあてる」→「笛を吹く」ことを表した字です。それは、人々を〝呼び集める〟ための合図ですから、〝呼ぶ〟という意味に使われます。例呼称、呼号、呼応、点呼、連呼。

また、「声を出す」ことから、「息を出す（はく）」という意味にも使います。例呼吸、呼気。

使い方

▽ぼくの友だちに、団体行動のへたな子がいます。遠足などで、点呼をとる時、必ずといっていいくらい、遅れて来るのです。悪気はないのですが、いつも何かに気をとられたり、うっかりしたりして、遅くなるのです。ぼくも時々注意してやるのですが、なかなか直りません。点呼に間に合う良い方法はないかと思います。

熟語例

▽呼称（呼び名。「中国の正式な呼称は、中華人民共和国です」などというふうに、つかいます。）

▽呼号（呼び叫ぶこと。「号」は、大きな声で叫ぶことです。大々的に言い広める、という時に、つかいます。「十万と呼号する大部隊」などというふうに、つかいます。）

▽呼応（呼びかけと答え。またそこから、互いにしめしあわせて行動することを言います。）

▽点呼（名前を呼んで、人数がそろっているかどうかを確かめること。）

▽連呼（たてつづけに同じ言葉を叫ぶこと。「候補者が、自分の名前を連呼している」など）